

5-1 「時」と「時制」

1 英語に時制はいくつあるか？

文法書で時制の数を調べると、「2つだけ」から「12」に分けているものまで、その数がさまざまです。これはいったいなぜでしょう？
そもそも「時制」とは何を意味するか、その定義を簡単にいうと、

「時制」 = 「時間」を表すための動詞の形

なのですが、この「動詞の形」をどうとらえるかによって解釈が違ってきます。大まかに次の2つの考え方があります。

① 「動詞の形」を「動詞の活用形」と考えた場合

英語の動詞の5つの活用形「原形—現在形—過去形—過去分詞形—現在分詞形」(☞ p.083)の中で「時間」を表しているのは「現在形」と「過去形」だけです。ですから、この定義によれば、**英語の時制は「現在時制」と「過去時制」の2つしかないこと**になります。そうすると、たとえば *I will go there tomorrow.* という文の時制はどうなるのでしょうか。この文は、表している内容は未来のことですが、この文で使われている *will* という助動詞は「現在形」なのです。(willには「過去形」の *would* という形もあります) したがって、この *will* は「現在時制」ということになります。同じように、*I have just written a letter.* という現在完了形で表された文も *have* が「現在形」なので「現在時制」ということになります。

② 「動詞の形」を広く「V(述語動詞)の形」と考えた場合

これは時間を表す「現在・過去・未来」があって、さらにその中の「完了形・進行形・完了進行形」も1つの時制として扱う考え方

です。この考え方だと英語の時制はVの部分の形の数、つまり以下の12あることになります。

		動作が続いているか完了しているか...			
いつのことか	現在形	現在進行形	現在完了形	現在完了進行形	
	過去形	過去進行形	過去完了形	過去完了進行形	
	未来形	未来進行形	未来完了形	未来完了進行形	

ところで、進行形、完了形という用語の代わりに、文法書によっては「進行相」「完了相」という語を使っている場合があります。この「相」(「アスペクト」とも呼ばれる)というのは、動詞の表す意味が「一瞬の動作か、継続する状態か、反復する動作か、…」といったことを基準に分類するときを使う概念で、「過去、現在、未来」といった「時」とはまったく別の概念です。そして日本語、英語、ロシア語、…といった各言語には、その言語特有の「相」がありません。(相がない言語もあります)

たとえば、日本語の「来た」という動詞の形は、過去という「時間」ではなく、(過去・現在・未来を問わずに)「来る」という動作が完了したことを示す「完了相」を表すと考えられています。学校で自習時間に教室で騒いでいて見回りの先生の姿が遠くに見えたとき「静かにしろっ！ 先生が来たぞ」というときや、「今度日本に来たとき」というときの「来た」は、時間ではなく「来る」という行為の完了を表しているのです。

2 「現在」を表さない「現在時制」？

「動詞の形」の呼び名とその表している内容は必ずしも一致しません。たとえば、*I sleep for eight hours every day.* (私は毎日8時間眠る)という文の *sleep* は「現在形」で、時制は「現在時制」です。では「私」は「現在」眠っているのでしょうか？ いえ、この文の

「現在形」は「習慣的行為」を表していて、今この瞬間の行為を表しているわけではありません。

また、「時や条件を表す副詞節の中では未来のことでも現在形で表す(☞ p.147)」というルールをご存知であれば、以下の文の現在形 **comes** も実際には未来の行為を表しているとわかるはずです。

I'll ask him about it when he comes back.

(彼が戻ってきたら、それについて尋ねてみます)

また、主に小説などで、過去の出来事を現在形を使って表すことで、まるで目の前でそれが起こっているかのような臨場感を出す効果を狙って使われる現在形の用法があります。これは「**歴史的現在**」と呼ばれています。

3 単純未来と意志未来

次の2つの文を比べてください。

(a) **Next year I'll be twenty.** (来年私は20歳になります)

(b) **Next year I'll be more active.**

(来年はもっと活発に行動するつもりです)

どちらも **will** という助動詞で未来のことが表されていますが、(a) は自分の意志とは関係なく、来年誕生日が来れば必然的に20歳になります。このような意味を表す用法を「**単純未来**」といいます。それに対して、(b) は自分の意志を表していて、意志次第では **will** 以下のことが実現したりしなかったりします。このような意味を表す用法を「**意志未来**」といいます。

ところで、この「意志」って誰の意志でしょうか？ (b) ではもちろん主語の「私」の意志ですが、英文法で**意志未来**といった場合、次の2つの主な用法があります。

① 平叙文での「文の主語の意志」を表す

I'll get it done today. (今日中にそれを終わらせます)

② 疑問文での「相手の意志」を確認する場合

Shall I have him call you back later?

(後ほど彼に電話させましょうか)

さらに、古風な英語で、次のような助動詞 **shall** の主語が2人称や3人称の例を説明する場合にも意志未来という用語が使われます。

You shall have your money.

この **You shall ...** という形は、話し手の意志でそうなることを表しているのので、「私の意志で『あなたが金を手にする』ようにする」という意味から、「私があなたに金をあげる [or 払う]」という意味になります。もちろん古風な形で、現代英語ではまず使われません。

4 時制の一致

まず、次の日本語と英語を比べてみてください。

① 「彼は怒っている」 — (a) **He is angry.**

② 「彼は怒っていた」 — (b) **He was angry.**

上の①と②の最後に「...と言っている」をつけると、

③ 「彼は怒っていると言っている」 — (c) **He says he is angry.**

④ 「彼は怒っていたと言っている」 — (d) **He says he was angry.**

となります。では、今度は③④の「言っている」を過去、つまり「...と言った」に変えてみましょう。

⑤ 「彼は怒っていると言った」

⑥ 「彼は怒っていたと言った」